

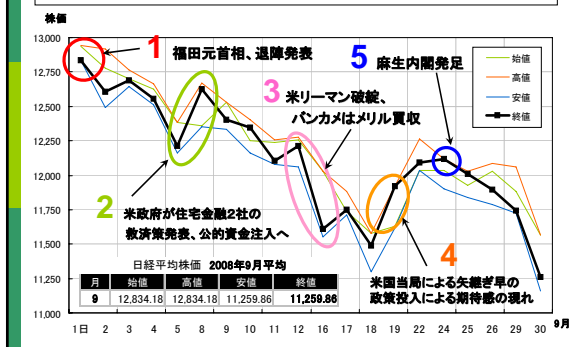
ゼミ生による 投資シミュレーション 結果報告



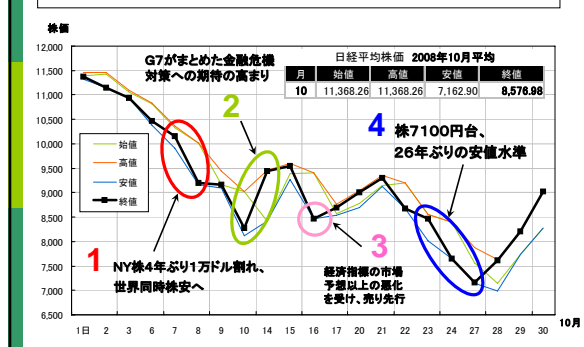
日経平均株価 '06年11月~'08年11月



日経平均株価 -2008年9月-



日経平均株価 -2008年10月-



それではゼミ生による
投資シミュレーションの
結果を見ていきましょう。



Takasaki City University of Economics

シミュレーション実施目的

- 今までにゼミの活動の中で学んできた企業価値評価や財務諸表分析、株式についての知識などを用い、実際にどのような結果を出すことができるのかを試すため。
- 実際に売買を行うわけではないが、学生が投資を行い、株式投資というものを事例を取り上げながら受講者の方々へわかりやすく説明するため。
- 普段以上に経済や社会の状況に目を向け、日本経済や世界経済を理解するため。

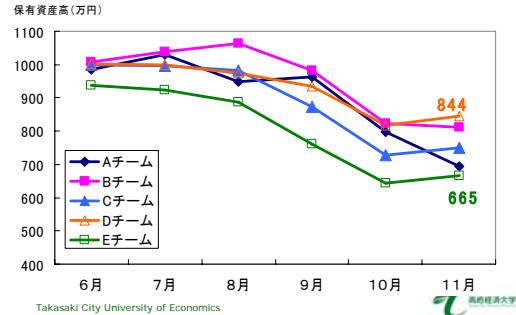
Takasaki City University of Economics

シミュレーションの概要

- 日本証券業協会の株式学習ゲームに参加。
(<http://www.ssg.ne.jp/>)
- 元本1000万円のチームを5チーム編成。
- ただ売買を行うだけでなく、手数料と税金を計算して行い、より現実に近い実践的なシミュレーションを行う。
- ゼミ生同士だけでなく、日本全国の参加学生と利益をどれだけ生み出すことができるのかを競う。



各チームの成績



発表内容について

- チームを組み、競っているが、今回の報告はチーム単位ではなく、その中で**失敗例**と**成功例**を合わせて**7銘柄**取り上げ説明していきます。
- 失敗例**
コニカミノルタ / 武田薬品 / 資生堂 / 三菱自動車
- 成功例**
損保JPN / セシール / オリエンタルランド

Takasaki City University of Economics



購入理由(失敗例)

- コニカミノルタホールディングス**
 - 5/29に購入。
 - チャートから購入時、上昇トレンドと判断。このトレンドがしばらくは続くと考えたため。
 - ゴールデンクロスが発生しており、値上がりの可能性が高いと判断。
- 武田薬品工業**
 - 5/23に購入。
 - 3月に底値を打ち、サポートラインが形成されていると判断し、上昇を期待し購入。

購入理由(失敗例)

- 資生堂**
 - 5/21に購入。5/29に売却。
 - 夏に向けての日焼け止めや化粧水の需要が、増大すると考えたため購入
- 三菱自動車**
 - 6/4に購入。9/8に売却。
 - 野村證券の国内株式出来高ランキング上位20銘柄にランクインしていたため。

Takasaki City University of Economics



考察① コニカミノルタホールディングス

- 購入当初は狙い通り順調に株価が上昇していった。
- 2,000円を超えた時点で売却しようと考えたが、もう少し様子を見てみることにしたが、その後の流れから考えてここで売却しておくべきだった。
- 11月11日時点で▲1,849,817円で保有中



考察② 武田薬品工業

- これもコニカと同様狙い通りになり購入動機は正しかった。
- 一度大きく下がったがそこでは売却せずに待っていたのは良かったがその後来た二度目の高値の時期に売却することができなかった。
- 11月11日時点で▲254,205円。



考察③ 資生堂

- 購入価格より20円値上がりしたため利益が出たと思い、売却。
- だが、手数料の計算ミスにより損失が出てしまった。
- 5月29日時点で▲7,037円で損失確定。



考察④ 三菱自動車

- 購入時より51円値下がりがりしてしまい、これ以上の損失を出すことはできないと判断し、やむなく売却。
- 9月8日時点で▲105,832円で損失確定。



反省①

1. コニカミノルタホールディングス

- まだもう少し上がるだろうという思考に陥ってしまい、利益を出せたとはいえずなのに、反対に大きな損失を出してしまった。
- 利益を確定させるという最大の目的の難しさを痛感した。

2. 武田薬品工業

- 2度目の高値を迎えた付近の時期に売却するべきだった。
- その後、2度の高値を越える値上がりを迎えることなく、ただ損失を出してしまった。

反省②

3. 資生堂

- 手数料のミスをして損失を出してしまったことが痛かった。
- 正確に計算してもう少し売却を遅らせれば損失を出すことはなかった。

4. 三菱自動車

- 野村証券のランキングを元に購入したのは狙い通りだった。
- だが株価の下降局面で早くから売却を決断していればここまでの損失を出すことはなかった。

Takasaki City University of Economics



購入理由(成功例)

1. 損保JPN

- 5/28に購入。6/4に売却。
- 購入時株価が安く、反発することを狙い購入。
- PERが株価から考えると低く、割安と判断。

2. セシール

- 5/28に購入。6/4に売却。
- ライブドアHDの株主状況に変化あり。
- 損保JPNと同様に反発狙い。

3. オリエンタルランド

- 5/27に購入。
- 今年で25周年をむかえ、客入りの増加が業績に好影響を与えると判断し、購入。

考察⑤ 損保JPN

- ・ 10%値上がりしたため、反発狙いなので売却。
- ・ 今期のこれまでの最高値で売却することに成功した。
- ・ 6月4日時点で+155,862円利益確定。



考察⑥ セシール

- ・ 株価の先行きが予想しづらく9%の値上がりの時点で売却。
- ・ 6月4日時点で+1,728円で利益確定。



考察⑦ オリエンタルランド

- ・ 11月10日時点で約15%の値上がり、+92,751円で保有中。
- ・ 現在保有中の銘柄で唯一利益が出ている。



反省③

1. 損保JPN

- ・ 今回の売買で最高の利益を生み出すことができた。
- ・ 売却後の流れを考えて、こしかないタイミングで売却することができた。

2. セシール

- ・ もう少し売却を遅らせていれば、もっと利益を出すことができた。
- ・ だが、しっかりと利益を出していることから堅実な投資だったといえる。

3. オリエンタルランド

- ・ この厳しい時期でも利益が出ていることから銘柄選択は正しかった。
- ・ 利益が出ているが、今後の値動きしだいでは大きく値下がりしてしまう可能性があるので注意が必要である。

シミュレーション全体の反省

- 短期保有では結果を出すことができたが、長期保有ではほとんどの銘柄で損失を出してしまい、よい結果を出すことができなかった。
- 最終的には全チームが元本割れしてしまい、結果を残すことができなかった。
- 経済危機が起き、それに対し全く対応することができず、自分たちの未熟さを痛感した。
- 実際に売買を行ってみて、ひとつの情報を元に売買するのではなく、さまざまな情報を組み合わせて売買を行っていかねばならない重要性を再認識した。

番外編

- 9月～10月期、ほとんどの銘柄が下がっている中、奮闘していた銘柄のご紹介

※なお、ここで紹介する銘柄は、Yahoo!ファイナンスの値上がり率ランキングで上位に組み込んでいたものです。(期間:2008年9月30日～10月31日)

※※決して、購入を勧めているわけではないので、売買する際は自己責任でよろしく願いいたします。

日経平均が暴落し続ける中、奮闘していた銘柄

- サービス業代表： **リソー教育**
- 小売業代表： **サイゼリヤ**
- 食料品代表： **プリマハム**

Takasaki City University of Economics



サービス業代表：リソー教育

- ・ 5億円を上限とした自社株買いが好感され、株価が上昇



小売業代表：サイゼリヤ

- ・ 最近の経済不況で個人消費が低迷する中、低価格を売りにしているサイゼリヤは業績を落とすことなく勝ち組銘柄として株価を伸ばした。



食料品代表：プリマハム

- ・ 生産工場のコストダウンが功を奏したなどが業績上方修正につながり、それが市場で好感され株価が上昇



3つの銘柄はなぜ、株価を落とさなかったか？

今回、日経平均が大きく下がったのは
米国の金融不安の影響を受けたため。



特に輸出関連株など、海外経済の影響を受けやすい業界は大きく株価を落としている。

しかし、上記3つの銘柄は海外経済の影響を受けにくい**内需株**であるため、大きく株価を落とすことはなかった。

Takasaki City University of Economics



出典

- Yahooファイナンス
<http://quote.yahoo.co.jp/>
- 日経平均プロフィール
<http://www3.nikkei.co.jp/inkave/data/index.cfm>
- YOMIURI ONLINE (読売新聞)
<http://www.yomiuri.co.jp/index.htm>

用語説明

ゴールデンクロス: 13週移動平均線(赤い折れ線グラフ)が26週移動平均線(緑の折れ線グラフ)の下から上に突き抜けること。株価が上昇するサインと言われている。

サポートライン(下値支持線): 株価がこの線の近くまでとどまり、反発に転じる線のこと。この線は、2つ以上の右肩上がりの谷が必要であり、その谷を結ぶことによって引かれる。

PER(株価収益率): "会社の利益と株価の関係"を表していて割安性を測ることができる。
PER(株価収益率) = 株価 ÷ 一株当たり当期純利益